



IB DP GROUP3 HANDBOOK (HISTORY)

SAPPORO KAISEI SECONDARY SCHOOL



目次

DP「歴史」の概要・ねらい.....	1
DP「歴史」の評価目標（評価規準）.....	2
DP「歴史」シラバス.....	3
指導計画.....	5
歴史研究（内部評価）.....	7
ディプロマ・テスト（外部評価）.....	10
評価の概要・指示用語・参考文献.....	13

DP「歴史」の

概要・ねらい

本校のDPプログラムではグループ3「個人と社会」の「歴史」の標準レベル（SL）を選択して学習します。

「歴史」では、日本の高校における「世界史」や「日本史」のように古代から現代までの通史を広く学ぶのではなく、後述するシラバスにあるように、2つの世界大戦や20世紀の紛争、独裁国家の特質などのテーマにかかわる具体的な事例について研究を深めます。

そして最後に、それらの学習を通して得た知識やスキルを活用する機会として「歴史研究」が設定されています。

（1）「個人と社会」（グループ3）のねらい

1. 「人々の経験と行動」、「物理的・経済的・社会的環境」、「社会制度や文化的慣習の発展とその歴史」について、体系的かつ批判的な学習を奨励する。
2. 個人と社会の性質や活動についての理論、概念、議論を認識して、それらを批判的に分析、評価する力を育む。
3. 社会を研究するためのデータを収集して説明および分析する能力、仮説を検証する能力、複雑なデータや文献を解釈する能力を育む。
4. 学ぶということは自分たちが属する社会の文化と他の社会の文化の双方に関連するものであるという理解を促す。
5. 人々の態度や意見は多様であり、社会の研究にあたってはその多様性を受け入れる必要があるという理解を育む。
6. グループ3の科目の内容や方法論には議論の余地があり、この分野の学問では不確実性を容認する姿勢が求められるという認識を育む。

（2）「歴史」のねらい ～ 上記に加え、「歴史」では、以下の点もねらいとしています。

7. 過去に対する理解と、過去への飽くなき興味を育む。
8. 多数のものの方見方に触れて、歴史的な概念、問題、出来事、発展の複雑さに価値を認めるよう奨励する。
9. 複数の地域の歴史を学ぶことにより、国際的な視野を育てる。
10. 学問領域としての歴史に対する理解を育み、年代や前後関係の感覚をはじめとする歴史的な意識を育て、歴史に対する異なる視点の理解を育む。
11. 文献を的確に扱うスキルなど、歴史学の重要なスキルを習得する。
12. 過去を考察することにより、自分自身と現代の社会に対する理解を深める。

DP「歴史」の

評価目標

(評価規準)

評価目標 1：知識と理解

- ・ 詳細、適切、正確な歴史の知識がある。
- ・ 歴史的な概念と歴史的な文脈を理解している。
- ・ 歴史の文献に対する理解を示す。（内部評価と「試験問題 1」）

評価目標 2：応用と分析

- ・ 明確で論理的な議論を組み立てる。
- ・ 関連性の高い歴史的な知識を使用して、分析を効果的に裏づける。
- ・ さまざまな文献を分析し、解釈する。（内部評価と「試験問題 1」）

評価目標 3：知識の統合と評価

- ・ 証拠と分析を統合して、論理的な議論を構築する。
- ・ 歴史上の問題や出来事についての異なる視点を評価して、議論に有効に統合する。
- ・ 歴史的根拠として文献を評価し、その価値と限界を認識する。
（内部評価と「試験問題 1」）
- ・ 関連する文献から得た情報を統合する。（内部評価と「試験問題 1」）

評価目標 4：適切なスキルの使用と応用

- ・ 設問の要求に的確に答える、的の絞れた小論文を構成し、作成する。
- ・ 歴史学者が用いる方法論と歴史学者が直面する課題について考察する。
（内部評価）
- ・ 歴史の探究を導く適切かつ的の絞れた質問を組み立てる。（内部評価）
- ・ リサーチスキル、および適切な文献を選択して参照し整理する能力があることを示す。（内部評価）

5年次と6年次前期までの1年半で、以下の3つの単元について学ぶ予定です。

1. 指定学習項目3：世界規模の戦争への動き

1931年から1941年にかけての日本の拡張政策、と1933年から1940年にかけてのドイツとイタリアの領土拡張政策について、このような政策が行われた理由、実施された主な政策、両国のおこなった政策に対する国際的な反応について探究します。

例えば、世界恐慌の影響といった経済問題が、両国の外部に対する攻撃的政策とどのように関連したのか、同時に両国の抱える国内問題やイデオロギー問題などが、拡張政策にどの程度影響したのかという観点や角度から考察を深めます。

(1) 事例研究1：東アジアにおける日本の拡張政策（1931-1941年） 拡張の理由

- ・ 日本のナショナリズムと軍国主義が外交政策に与えた影響
- ・ 日本国内の政治・経済的問題、それらの問題が外交関係に与えた影響
- ・ 中国の政情不安

出来事

- ・ 日本による満州と中国北部への侵攻（1931年）
- ・ 日中戦争（1937-1941年）
- ・ 日独伊三国同盟、大戦の勃発、パールハーバー（真珠湾）奇襲（1941年）

反応

- ・ 国際連盟とリットン報告書
- ・ 中国国内の政治展開、第二次国共合作
- ・ アメリカ合衆国の戦略と日米間の緊張状態を含む国際的な反応

(2) 事例研究2：ドイツとイタリアの拡張政策（1933-1940年） 拡張の理由

- ・ ファシズムとナチズムがイタリアとドイツの外交政策に与えた影響
- ・ 国内の経済問題がイタリアとドイツの外交政策に与えた影響
- ・ ヨーロッパの外交関係の変化：集団安全保障の終焉、宥和政策

出来事

- ・ 第一次世界大戦後の合意に対するドイツの挑戦（1933-1938年）
- ・ イタリアの拡張政策：アビシニア（1935-1936年）、アルバニア、第二次世界大戦への参戦

- ・ ドイツの拡張政策（1938-1939年）、鋼鉄協約、独ソ不可侵条約、大戦の勃発

反応

- ・ ドイツの侵攻に対する国際的な反応（1933-1938年）
- ・ イタリアの侵攻に対する国際的な反応（1935-1936年）
- ・ ドイツとイタリアの侵攻に対する国際的な反応（1940年）

2. 世界史トピック 10：独裁主義的国家（20 世紀）

このトピックでは、20 世紀に独裁主義的国家の出現を促進した要因と、政党や指導者が権力を掌握しそれを維持するために用いた方法に焦点をあて、権力の出現、強化、維持について、また指導者の国内政策と外交政策が権力維持にどのような影響をもたらしたのかを探究します。

学習テーマ① 独裁主義的国家の出現

指定の学習内容

- ・ 独裁主義的国家が出現するに至った状況：経済的要因、社会的分裂、戦争の影響、政治制度の脆弱性
- ・ 独裁主義的国家の設立のために用いられた方法：説得と強制、指導者の役割、イデオロギー、武力の行使、プロパガンダ

学習テーマ② 権力の強化と維持

指定の学習内容

- ・ 法的手段の使用、武力の行使、カリスマ的指導力、プロパガンダ
- ・ 反対勢力の性質と規模、および反対勢力への対処
- ・ 外交政策の成功と失敗が権力の維持に及ぼした影響

学習テーマ③ 政策のねらいと結果

指定の学習内容

- ・ 国内政策のねらいと影響、政治・文化・社会面の政策
- ・ 政策が女性や社会的少数者に与えた影響
- ・ 独裁的支配とその達成の度合い

3 世界史トピック 11：20 世紀の戦争の原因と影響

このトピックでは、20 世紀の戦争の原因、過程、影響に焦点をあて、戦争が起こった原因や、戦争の種類と使用された技術などを含む戦争の行われ方、そしてこれらの要因が結果に及ぼした影響について探究します。

学習テーマ① 戦争の原因

指定の学習内容

- ・ 経済、イデオロギー、政治、領土に関連する原因とその他の原因
- ・ 短期的要因と長期的要因

学習テーマ② 慣習と結果への影響

指定の学習内容

- ・ 戦争の種類：内戦、国家間の戦争、ゲリラ戦
- ・ 技術開発、陸上・海戦・空戦
- ・ 人と経済資源の動員の度合い
- ・ 外国勢力の関与や影響

学習テーマ③ 影響

指定の学習内容

- ・ 和平調停の成功と失敗
- ・ 領土変更
- ・ 短期および長期の政治的影響
- ・ 経済・社会・人口への影響、女性の役割や地位の変化

指導計画

※1時間=1Session(100分)換算

	トピック/ユニット	内容	時間
1年目	オリエンテーション	DP歴史について説明	計1時間
	1. 1870年以降における英の対独包囲網形成の過程とバルカンの民族運動 20世紀の戦争の原因と影響 学習テーマ①戦争の原因	① 第一次世界大戦の長期的要因 ・帝国主義と新航路政策 ・三国同盟と三国協商 ② 第一次世界大戦の短期的要因 ・モロッコ事件 ・バルカン問題と七月危機	計10時間
	2. 第一次世界大戦とヴェルサイユ体制 20世紀の戦争の原因と影響 学習テーマ②慣習と結果への影響 学習テーマ③影響	① 第一次世界大戦の展開と影響 ・技術開発：新兵器の登場 ・陸上・海戦・空戦 ・各国の人と経済資源の動員の度合い ② 第一次世界大戦の影響(1920年代) ・和平調停：パリ講和会議とその結果 ・領土変更と賠償金問題 ・経済・社会・人口への影響 ・女性の役割や地位の変化	計13時間
	3. 世界恐慌とファシズム体制の出現 世界規模の戦争への動き ドイツとイタリアの拡張政策 20世紀の戦争の原因と影響 学習テーマ①戦争の原因 学習テーマ②慣習と結果への影響 独裁主義的国家 学習テーマ①独裁主義的国家の出現 学習テーマ②権力の強化と維持 学習テーマ③政策のねらいと結果	① ドイツとイタリアの拡張政策(1930年代) ・世界恐慌とブロック経済 ・ドイツとイタリアの拡張政策 ・内戦：スペイン内戦 ② 独裁主義的国家の出現 ・ソ連：レーニンとスターリン ・イタリア：ムッソリーニ ・ドイツ：ヒトラー	計12時間
	4. 第二次世界大戦 世界規模の戦争への動き 東アジアにおける日本の拡張政策	① 日本の拡張政策 ・内戦：第一次国共内戦 ・日本の国内情勢 ・満州事変と日中戦争 ・日米交渉と太平洋戦争の勃発	計10時間

指導計画

	<p>20 世紀の戦争の原因と影響</p> <p>学習テーマ①戦争の原因</p> <p>学習テーマ②慣習と結果への影響</p>	<p>② 第二次世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州戦線 ・ アジア太平洋戦線 	
	<p>5. 冷戦期の世界</p> <p>20 世紀の戦争の原因と影響</p> <p>学習テーマ③影響</p> <p>独裁主義的国家</p> <p>学習テーマ①独裁主義的国家の出現</p> <p>学習テーマ②権力の強化と維持</p> <p>学習テーマ③政策のねらいと結果</p>	<p>① 冷戦下の世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次世界大戦後の世界 ・ 東西対立 ・ 中華人民共和国の成立 ・ 内戦：朝鮮戦争 ・ ゲリラ戦：ベトナム戦争 <p>② 独裁主義的国家の出現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中華人民共和国：毛沢東 ・ キューバ：カストロ 	計 9 時間
2 年目	<p>6. 歴史研究準備</p> <p>世界規模の戦争への動き</p> <p>独裁主義的国家</p> <p>20 世紀の戦争の原因と影響</p>	<p>① 歴史研究準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ決定作業 ・ 必要な資料の収集 <p>② 世界規模の戦争への動きの総括</p> <p>③ 独裁主義的国家の整理</p> <p>④ 20 世紀の戦争の原因と影響の整理</p>	計 15 時間
	<p>7. 歴史研究</p>	<p>TOKやEEと連携して行う</p>	計 20 時間

歴史研究

(内部評価)

内部評価は授業と一体をなす要素であり、必ず取り組まなければなりません。内部評価課題では、筆記試験でのように時間の制限やその他の制約に左右されることなく、それぞれの興味を追い求めつつ、知識とスキルの活用を示すことができます。

「歴史研究」のトピックは生徒が自由に選択でき、シラバスに関連のないトピックでも構いません。主体的にトピックを選択する事ができますが、トピックは「歴史」に関するものでなければならず、このため**過去 10 年以内の出来事を選択することはできません。**

また、4400 字の字数制限があり、全ての資料の出典を必ず明らかにし、参考文献目録に記載しなければなりません。（参考文献目録は全体の字数に計上しません）

以下に内部評価の取り組み方をまとめます。

セクション 1：資料の説明と評価

このセクションでは、研究で使用する資料のうち2つを選んで詳細に分析します。資料は一次資料と二次資料のどちらでも構いません。以下を行う必要があります。

- 研究課題を明確に述べる（質問の形式にまとめます）。
- 詳細な分析の対象として選んだ2つの資料の性質を簡潔に説明する。この際、研究への関連性についても言及する。
- 2つの資料を詳細にわたって分析する。資料の出典、目的、内容に言及しながら、その価値と限界について、研究への関連性という観点から分析する。

セクション 2：研究

このセクションは、実際の研究です。研究は明確かつ効果的に構成されなければなりません。このセクションのための指定のフォーマットはありませんが、研究課題に明確に沿った批判的分析と、分析から導き出される結論は必ずこのセクションに含めるようにしてください。

セクション 3：考察

このセクションでは、歴史学の方法論や歴史学者が直面する課題について、自身の研究から明らかになったことを考察します。

歴史研究

(内部評価)

内部評価のマークバンド（採点基準表） — 規準 A：資料の説明と評価

評点	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1-2	研究課題が述べられている。適切な資料を特定・選択しているが、研究との関連性がほとんど（あるいはまったく）説明されていない。 2つの資料の説明はあるが、分析と評価が行われていない。
3-4	適切な研究課題が述べられている。適切な資料を特定・選択しており、研究との関連性もある程度説明されている。 2つの資料の分析と評価がある程度見受けられるが、資料の価値と限界についてはわずかな言及にとどまっている。
5-6	適切な研究課題が明確に述べられている。適切で関連性のある資料を特定・選択しており、研究との関連性も明確に説明されている。 2つの資料の詳細な分析と評価が行われており、出典、目的、内容に言及したうえで、その価値と限界を明確に議論している。

内部評価のマークバンド（採点基準表） — 規準 B：研究

評点	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1-3	研究が明瞭さと一貫性に欠け、構成が認められないか、認められるとしても研究の趣旨から外れている。 批判的分析がほとんど（あるいはまったく）行われておらず、ほとんどが一般論や根拠の不十分な主張で構成されている。資料から得られる根拠について言及しているが、その根拠の分析は行われていない。
4-6	研究を体系的に構成しようとした試みが見受けられるが、部分的なレベルにとどまっていて、明瞭さと一貫性を欠いている。 不十分ではあるが、多少の批判的分析が見受けられる。ただし、総じて記述的・描写的な傾向が強く、分析的であるとは言い難い。資料から得られる根拠について言及しているが、分析や議論に統合されていない。
7-9	研究はおおむね明瞭で、まとまった構成になっている。ただし、ところどころ繰り返しや不明瞭が見られる。 ある程度の分析や批判的論評が見受けられ、内容は記述・描写の域を超えていると言えるが、このレベルが全体にわたって維持されているわけではない。資料から得られる根拠を分析や議論に統合しようという試みが見受けられる。 異なる視点が存在することを認識しているかもしれないが、その評価は行われていない。
10-12	研究はおおむね明瞭で、まとまった構成になっている。ただし、ところどころ繰り返しや不明瞭が見られる場合もある。 明瞭さに欠けるところや発展が不十分なところはあるものの、批判的分析が行われている。さまざまな資料から得た根拠を、議論を補強するために使っている。 異なる視点が存在することを認識しており、その評価もある程度見受けられる。議論が結論へと論理的につながっている。
13-15	研究は明瞭で一貫性もあり、効果的に構成されている。 十分に発展された批判的分析が、研究課題に明確に沿って行われている。さまざまな資料から得た根拠を、議論を効果的に補強するために使っている。 異なる視点の評価が行われている。前段の議論や提示した根拠に合致する論理的な結論が述べられている。

歴史研究

(内部評価)

内部評価のマークバンド（採点基準表） — 規準 C：考察

評点	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1-2	歴史学の方法論について、研究から何が明らかになったかがある程度論じている。 歴史学者が直面する課題や歴史学の方法論の限界について、理解がほとんど見受けられない。 考察と他のセクションとのつながりが示唆されてはいるが、明確でない。
3-4	歴史学の方法論について、研究から何が明らかになったかを明確に論じている。 歴史学者が直面する課題や歴史学の方法論の限界について、明確な理解が見受けられる。 考察と他のセクションとのつながりが明確に示されている。

字数の制限

「歴史研究」の各セクションの字数配分の目安は以下のとおりです。ただし、これらはあくまでも目安であることに留意してください。

セクション	字数配分の目安	関連する評価規準	配点
1 資料の説明と評価	1000 字	A 資料の説明と評価	6 点
2 研究	2600 字	B 研究	15 点
3 考察	800 字	C 考察	4 点
参考文献目録	適用外	なし	なし
字数合計の上限	4400 字		合計 25 点

ディプロマ・
テスト
(外部評価)

ディプロマ資格取得のために、6年次の11月にテストを受けます。
このテスト（外部評価）では、以下の2種類の評価手法が用いられます。

- ・各試験問題用の詳細なマークスキーム（採点基準）
- ・マークバンド（採点基準表）

マークバンド（採点基準表）は次ページに記載します。マークバンド（採点基準表）は、「歴史」のために設定された評価目標、および「個人と社会」（グループ3）の成績の評価規準の説明と連動しています。マークスキーム（採点基準）は試験ごとにその試験に準拠して作成されます。

試験問題1（1時間 24点満点）

「指定学習項目3：世界規模の戦争への動き」に基づいた資料について、4つの設問全てに解答します。試験では、4つの資料を使用します。資料は一次資料、または一次資料と二次資料の混合で、文献資料、絵や写真などの視覚資料、図式による資料です。1つまたは複数の指定された資料から引き出せる根拠のみに基づいて解答する設問もありますが、その他の設問では、資料に含まれる根拠だけでなく「指定学習項目3：世界規模の戦争への動き」に関する自分自身の知識を活用することが要求されます。

設問1 A	4つの資料のうちの1つに対する理解度を試験する。	3点
設問1 B	4つの資料のうちの1つに対する理解度を試験する。	2点
設問2	1つの資料に関して、その価値と限界を分析する。この分析に際しては、資料の出典、目的、内容に言及することが要求される。	4点
設問3	2つの資料が「指定学習項目」の特定の側面を研究する歴史学者に対して示すものを比較・対比する。	6点
設問4	評価を求める設問。この評価に際しては、資料と自分自身の知識の両方を活用することが要求される。	9点

試験問題2（1時間30分 30点満点）

1つの世界史トピックにつき2つずつ用意された設問のうちそれぞれの世界史トピックから1つずつの小論文形式の設問に解答しなければならない。

1 世界史トピック10：独裁主義的国家（20世紀）

試験答案では特定の独裁主義的国家に言及することが要求され、またいくつかの設問では、異なる地域に属する複数の国家について論じることが要求されます。

2 世界史トピック11：20世紀の戦争の原因と結果

試験答案では20世紀に起こった特定の戦争に言及することが要求され、またいくつかの設問では、複数の地域の戦争について論じることが要求されます。このトピックで学習する例には、第一次世界大戦や第二次世界大戦のようにDPの「歴史」の地域区分をまたいで起きた戦争が含まれています。試験の設問が異なる地域の戦争の例について論じることを要求している場合は、地域をまたぐ戦争を特定の地域に関連させて論じることができません（例：太平洋における第二次世界大戦）、同じ答案で同じ戦争を別の地域に関連させて論じることができません（例：ヨーロッパにおける第二次世界大戦）。

ディプロマ・
テスト
(外部評価)

外部評価のマークバンド（採点基準表） — 試験問題1（設問4）

評点	レベルの説明
0	答案が以下のレベル説明の基準に達していない。
1- 3	答案が設問の焦点から外れている。 資料への言及はあるものの内容の描写にとどまりがちで、資料が分析を裏づけるための根拠として使用されていない。 生徒自身の知識が示されていない。知識が示されていたとしても、不正確もしくは設問に無関係である。
4- 6	答案が設問の趣旨におおむね沿っている。 資料への言及があり、またそれが分析を裏づけるための根拠として使用されている。 生徒自身の知識が示されているが、正確性もしくは設問への関連性に欠ける。 自身の知識と資料を統合する試みがほとんど（あるいはまったく）見受けられない。
7- 9	答案が設問の趣旨に沿っている。 資料への言及が明確になされており、またそれが分析を裏づけるための根拠として効果的に使用されている。 正確かつ設問に関連のある知識が示されている。自身の知識と資料が効果的に統合されている。

外部評価のマークバンド（採点基準表） — 試験問題2

評点	レベルの説明
0	答案が以下のレベル説明の基準に達していない。
1- 3	設問の要求をほとんど理解していない。小論文に構成が認められないか、認められるとしても設問の焦点から外れている。 設問が扱う世界史のトピックに対する知識がほとんど見受けられない。 議論のために例を挙げてはいるが、事実に間違っているか、設問に無関係、もしくは不明瞭である。 批判的分析がほとんど（あるいはまったく）見受けられない。答案のほとんどが一般論や根拠の不十分な主張で構成されている。
4- 6	設問の要求をある程度理解している。答案を体系的に構成しようとした試みが見受けられるものの、明瞭さと一貫性に欠ける。 設問が扱う世界史のトピックに対する知識が示されているが、正確性もしくは関連性に欠ける。表面的なレベルではあるが、歴史的な文脈に対する理解が見受けられる。 議論のために特定の例を挙げてはいるものの、不明瞭であるか、設問への関連性に欠ける。 不十分ではあるが、多少の分析が見受けられる。ただし、答案は記述的・描写的な性質が強く、分析的であるとは言い難い。
7- 9	設問の要求を理解しているが、答案ではその要求が部分的にしか満たされていない。答案を体系的に構成しようとした試みが見受けられる。 設問が扱う世界史のトピックに対する知識はおおむね正確であり、設問への関連性もある。歴史上の出来事をおおむね歴史的な文脈に位置づけて論じている。 議論のために選んだ例は適切であり、設問への関連性もある。 （設問にとって適切な）比較や関連づけが行われている。 ある程度の分析もしくは批判的論評が見受けられ、答案は記述・描写の域を超えていると言えるが、このレベルが答案全体にわたって維持されているわけではない。

ディプロマ・
テスト
(外部評価)

10-12	<p>設問の要求を理解しており、答案もこれに沿って作成されている。答案はおおむねよく構成されているが、ところどころ繰り返しや不明瞭さが見受けられる。</p> <p>設問が扱う世界史のトピックに対する知識はおおむね正確であり、設問への関連性もある。歴史上の出来事をおおむね歴史的な脈に位置づけて論じており、歴史的な概念に対するある程度の理解も見受けられる。</p> <p>議論のために選んだ例は適切であり、設問への関連性もあるうえ、分析・評価を裏づけるための根拠として使われている。(設問にとって適切な)比較や関連づけが効果的に行われている。批判的分析が行われており、その大部分が明瞭で、一貫性もある。異なる視点に対する認識と評価がある程度見受けられる。主要点のほとんどは根拠によって裏づけられており、議論が結論へと論理的につながっている。</p>
13-15	<p>設問の趣旨に的確に沿って答案が作成されており、設問が含意するところとその要求に対する高度な理解も見られる。答案はよく構成され、効果的に整理されている。</p> <p>設問が扱う世界史のトピックに対する知識は正確で、設問への関連性もある。歴史上の出来事を歴史的な脈に位置づけて論じており、歴史的な概念に対する明確な理解も見られる。</p> <p>議論のために選んだ例は適切であり、設問への関連性もあるうえ、分析・評価を裏づけるための根拠として効果的に使われている。(設問にとって適切な)比較や関連づけが効果的に行われている。</p> <p>明瞭かつ一貫性のある批判的分析が行われている。異なる視点に対する評価が行われており、またこの評価が答案に効果的に組み込まれている。すべての(あるいはほぼすべての)主要点が根拠によって裏づけられており、議論が結論へと論理的につながっている。</p>

評価の概要

評価の構成	配点比率
外部評価（2時間30分） 試験問題1（1時間） 「指定学習項目」に基づいた資料について、4つの設問全てに解答する。（24点） 試験問題2（1時間30分） 2つの「世界史トピック」に関する2つの小論文形式の問題に回答する。（30点）	75% 30% 45%
内部評価（20時間） この評価要素は教師によって採点され、コース終了時にIBによるモデレーション（評価の適正化）を受ける。 「歴史研究」 自ら選択したトピックに関する歴史研究を完成させる。（25点）	25%

指示用語

用語	意味
分析しなさい	本質的な要素または構造を明らかにするために分解しなさい。
比較・対比しなさい	2つ（またはそれ以上）の事柄または状況の類似点および相違点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら、説明しなさい。
論じなさい	さまざまな議論、要因、仮説を考慮し、バランスよく批評しなさい。意見または結論は、適切な根拠を挙げて、はっきりと述べなさい。
評価しなさい	長所と短所を比較し、価値を定めなさい。
考察しなさい	論点の前提や相互関係が明らかになるように、議論または概念について考えなさい。
どの程度	議論または概念の長所または短所を検討しなさい。意見および結論ははっきりと提示し、適切な証拠および論理的に正しい論拠をもたせなさい。

参考文献

『ディプロマプログラム（DP）「歴史」指導の手引き（日本語版）』
 International Baccalaureate Organization,
 2018.8



Sapporo Kaisei Secondary School

1-1 Kita 22 Jo Higashi 21 Chome

Higashi Ward, Sapporo

Hokkaido, Japan

065-8558